

ポンポン船づくり



7月23日(土)に、いわチャレ『ポンポン船づくり』を実施しました。

まず初めに構造と動く仕組みの学習からです。

今日つくる『ポンポン船』は、アルミ管に取り入れられた水がロウソクの炎で加熱され、水蒸気となって一気に噴き出すその反動で進みます。

水蒸気を噴き出して圧力の下がったアルミ管には再び水が取り込まれ、加熱・蒸発を繰り返して船は進み続けます。

作業は、ボイラー部のアルミ管の固定やろうそくの据え付けなど、ちょっと手こずるところもありましたが、慎重に作業を進め『ポンポン船』を完成させることができました。

出来上がった船をアトリウムの水槽に浮かべ、ロウソクに点火してしばらく待つと、小刻みに震えだしたポンポン船が走り出します。

みるみるうちにスピードを増して進む船に歓声も上がりました。

全員の船が無事走って事業は終了となりました。船を持ち帰った後もロウソクの長さや太さ、アルミ管の角度を変えるなど工夫をして、ポンポン船の改良に挑戦してほしいと思います。

今回のポンポン船づくりは

参加者：9名(小学生)(保護者6名)

指導者：岩見沢郷土科学館 管理指導員 藤森 正男

みなさん、ありがとうございました